

4 古天神古墳出土鉄鏃の位置づけ

土屋 隆史

はじめに

古天神古墳からは複数の鉄鏃が出土しており、東京国立博物館と島根大学（伝資料）で所蔵されている。これまで鉄鏃は図面も写真も公表されていなかったが、このたび鉄鏃を調査したところ、破片が大部分であるものの、鏃身部や頸部関の形態がわかるものを多く確認することができた。この情報をもとにして、本稿では鉄鏃の製作時期と地域的特徴についての見解を報告する。

（1）古天神古墳出土鉄鏃の来歴

古天神古墳出土品の発見から東京国立博物館に寄贈されるまでの経緯が書かれた公文書として、「島根県八束郡大庭村大字大草字杉谷千百六十九番地古天神ト称スル山林内ニ於テ発掘シタル円頭大刀以下十五点寄贈ニ関スル件（七月）」『大正七年埋蔵物録三』（東京国立博物館所蔵）がある。詳細は第4章6加藤一郎氏の考察を参照願いたい。ここでは、鉄鏃にかんするものに注目する。

古天神古墳の出土品リストの中には、以下のとおり「鉄鏃」の記載が確認できる。

「列品番号：八四三四、回議番号：六七六、品目：鉄器残片、形状寸法物質重量作者産地等ノ摘要：刀身、轡、鏃、刀子等残片、数量：壺活、償格：金拾銭」

鉄鏃は鉄器残片にまとめられており、個体数などは不明である。また、出土品の絵図にも書かれていない。現在、東京国立博物館で所蔵されている鉄鏃を指したものであろう。

その後の古天神古墳にかんする論文には鉄鏃についての言及はみられないが〔梅原 1918、高橋 1919、後藤 1925、野津 1925 など〕、島根大学でも鉄鏃が所蔵されている。この鉄鏃はどのような経緯で出土したものかよくわからず、扱いが難しい資料であったが、この度の調査で島根大学所蔵伝古天神古墳出土の鉄刀と東京国立博物館所蔵鉄刀が接合したことにより、島根大学所蔵の鉄鏃も古天神古墳出土品である可能性が高まった。

ただし、東京国立博物館所蔵品には長頸鏃の頸部などの小さな破片も含まれており、もし島根大学所蔵品のような残存率の高い個体が同時期に出土していたとすれば、当然東京国立博物館へ寄贈されていたはずである。また、島根大学所蔵品には、東京国立博物館所蔵品にない形式も含まれている。島根大学所蔵品が大正四年の同時期に出土した可能性は低く、その出土経緯は不明である。

（2）古天神古墳出土鉄鏃の特徴

① 出土鉄鏃の概要（第67図）

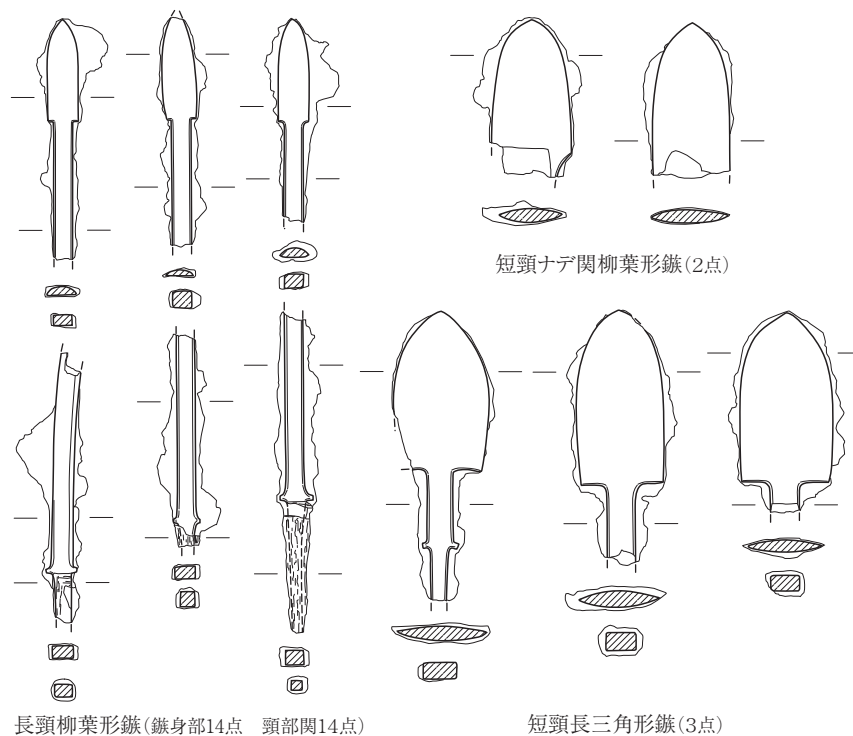
第3章で述べたとおり、東京国立博物館所蔵品と島根大学所蔵品をあわせると、古天神古墳出土鉄鏃は少なくとも26個体以上はあったと考えられる。

その内訳は、以下のとおりである。

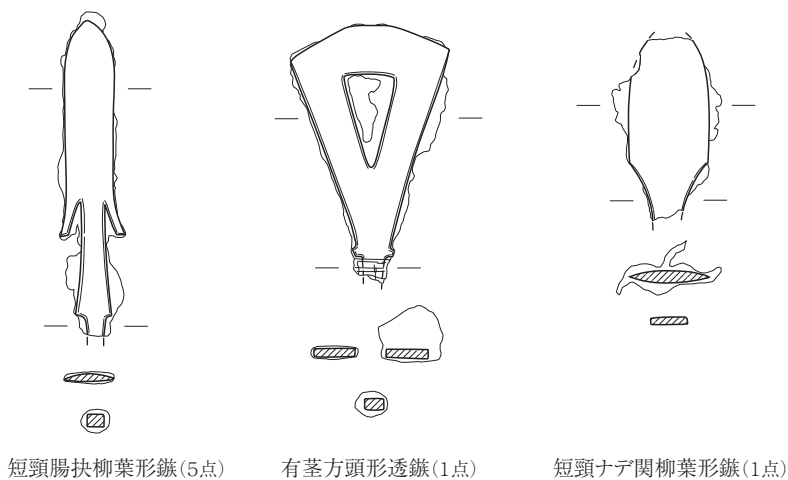
東京国立博物館所蔵品

長頸柳葉形鏃（鏃身部 14 点 頸部関 14 点）、短頸長三角形鏃（3 点）、短頸ナデ関柳葉形鏃（2 点）

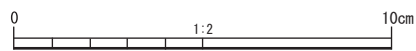
4 古天神古墳出土鉄鎌の位置づけ（土屋）



東京国立博物館所蔵



島根大学所蔵



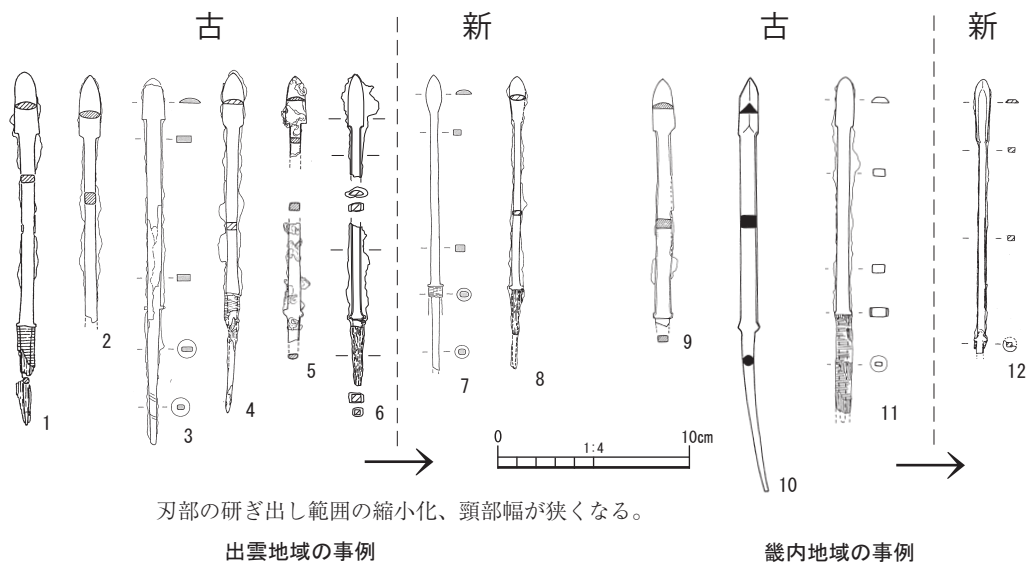
第 67 図 古天神古墳出土鉄鎌（代表例を一部抜粋）〔S=1/2〕

島根大学所蔵品

短頭腸挟柳葉形鎌（5点）、有茎方頭形透鎌（1点）、短頭ナデ関柳葉形鎌（1点）
以下では、これらの鉄鎌の製作時期・系譜について検討する。

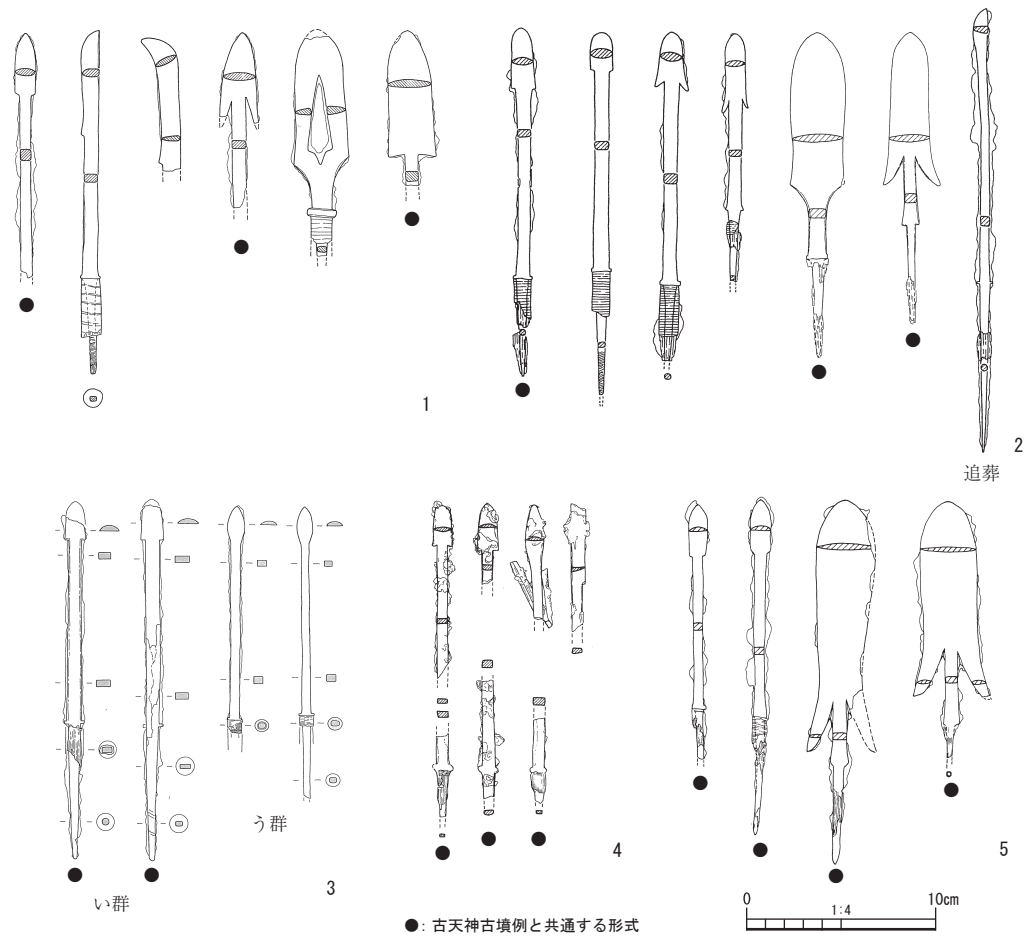
② 製作時期にかんする特徴

時期を考えるうえで、まず各形式に共通してみられる特徴は、頸部関に棘状関がみられるという



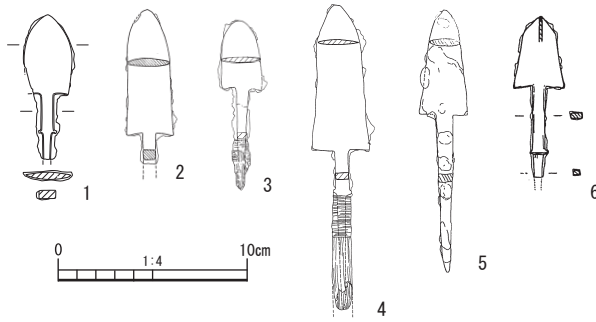
1. 鳥根県御崎山古墳 2. 鳥根県上塩冶築山古墳 3. 鳥根県中村1号墳い群 4. 鳥根県高野2号墳
 5. 鳥根県岡田山1号墳 6. 鳥根県古天神古墳 7. 鳥根県中村1号墳う群 8. 鳥根県島田池6区7号横穴墓
 9. 奈良県平林古墳 10. 奈良県烏土塚古墳 11. 奈良県藤ノ木古墳 12. 奈良県牧野古墳

第68図 長頸柳葉形鏃の型式変化 [S=1/4]



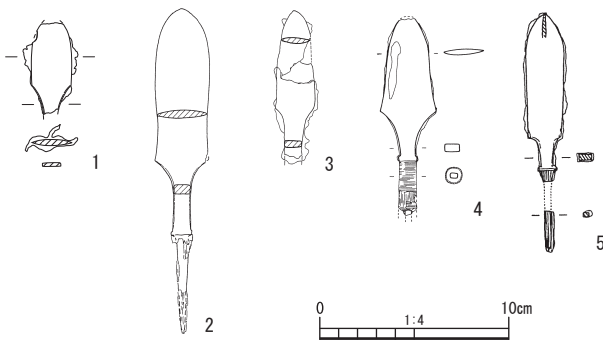
第69図 近い製作時期が想定される出雲地域出土鉄鏃との比較 [S=1/4]

4 古天神古墳出土鉄鎌の位置づけ (土屋)



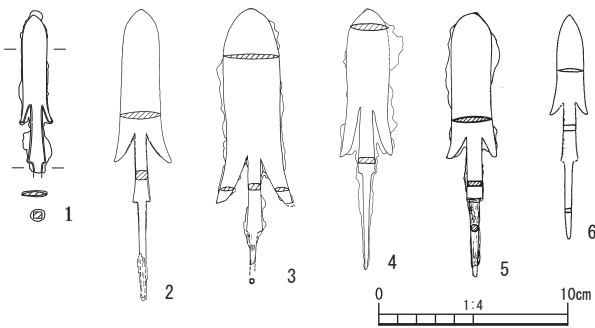
1. 鳥根県古天神古墳 2. 鳥根県上塩冶築山古墳 3. 鳥根県島田池4区12号横穴墓
4. 鳥根県島田池6区6号横穴墓 5. 鳥根県田和山1号墳 6. 奈良県龍王山C-3号墳

第70図 短頸長三角形鎌の類例 [S=1/4]



1. 鳥根県古天神古墳 2. 鳥根県御崎山古墳 3. 鳥根県島田池6区6号横穴墓
4. 奈良県藤ノ木古墳 5. 奈良県龍王山C-3号墳

第71図 短頸ナゲ関柳葉形鎌の類例 [S=1/4]



1. 鳥根県古天神古墳 2. 鳥根県御崎山古墳 3. 鳥根県高野2号墳
4. 鳥根県島田池6区10号横穴墓 5. 鳥根県薄井原古墳 6. 奈良県忍坂1号墳

第72図 短頸腸挟柳葉形鎌の類例 [S=1/4]

点である。棘状関は、倭ではTK43型式期以降にみられる特徴であり〔関1986、飯塚1987、杉山1988、水野2003〕、出雲地域でもTK43型式期以降にみられることが指摘されている〔大谷1999〕。このような研究成果から、古天神古墳例はTK43型式期以降に位置づけられると考えられる。

また、長頸柳葉形鎌は、鎌身部の退化（刃部の研ぎ出し範囲の縮小化）〔水野1993、尾上1993〕、頸部幅の縮小化〔平林2013〕という方向で型式変化することが指摘されており、鉄鎌の製作時期を考えるうえで指標になる。鎌身部の退化と頸部幅の縮小化は相対的な傾向であり、明確な数値で時期を区分できるものではない。そのため、頸部関に棘状関がみられるものの中で、鎌身関、刃部範囲、頸部幅の特徴が類似するグループを抽出するという観点から、出雲地域出土鉄鎌の時期を検討した。その結果、古天神古墳出土長頸柳葉形鎌とほぼ同じ特徴をもつ出雲地域の事例として、御崎山古墳（松江市）、上塩冶築山古墳（出雲市）、中村1号墳（い群）（出雲市）、高野2号墳（松江市）、岡田山1号墳（松江市）例を確認した（第68図左）。また、古天神古墳例とはやや異なる特徴をもち、新しい製作時期が想定される事例としては、中村1号墳（う群）（出雲市）、島田池6区7号横穴墓（松江市）例を確認した。

なお、古天神古墳例とほぼ同じ特徴をもち、同じ製作時期が想定される畿内地域の類例としては、平林古墳（奈良県葛城市）、烏土塚古墳（奈良県生駒郡平群町）、藤ノ木古墳（奈良県生駒郡斑鳩町）例が挙げられる（第68図右）。やや新しい時期のものとしては、牧野古墳（奈良県北葛城郡広陵町）例が挙げられる。

他の形式については明確な時期の指標を示すことが難しいが、長頸柳葉形鎌と明確に異なる時期が想定されるものはみられない。短頸腸挟柳葉形鎌の頸部関には棘状関がみられず、古い要素である台形関がみられるが、これは短頸腸挟柳葉形鎌によくみられる特徴であり、地域的特徴と関係する要素である。詳しくは後述する。

③ 地域的特徴

第69図では、古天神古墳例とほぼ同じ製作時期が想定される出雲地域出土鉄鏃として、上塩冶築山古墳、御崎山古墳、中村1号墳い群、岡田山1号墳、高野2号墳例を挙げた。また、伝上塩冶築山古墳出土品（出雲弥生の森博物館所蔵）の中には、有茎方頭形透も認められる。古天神古墳出土鉄鏃は、どの形式も周辺地域に類例があり、特殊な鉄鏃組成というわけではないことがわかる。

個別に詳しくみていこう。古天神古墳例は、広域共通形式と地域特有形式にわけられる。ここでいう広域共通形式とは、畿内地域をはじめとした倭の広域で共通してみられる形式を指し、長頸柳葉形、短頸長三角

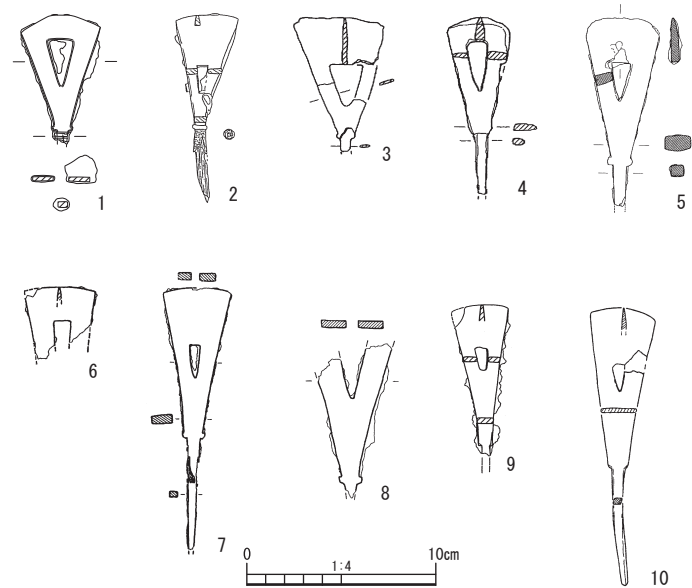
形、短頸ナデ関柳葉形がこれに相当する。また、地域特有形式とは、畿内地域に類例が多くみられない地域特有の形式を指し、短頸腸挟柳葉形、有茎方頭形透鏃が相当する。

広域共通形式 それぞれの類例について確認する。長頸柳葉形はTK216型式期以降、日本列島で最も多く出土する形式であり〔鈴木2003など〕、どの地域においても多く出土している。短頸長三角形も、形態にやや違いは出るが、長頸柳葉形と同様にどの地域においても多く出土する（第70図）。短頸ナデ関柳葉形は、水野敏典編年の後期2段階（TK43型式期）に西日本で特徴的にみられる形式であることが指摘されており〔水野2003〕、畿内地域や出雲地域でも多く出土する（第71図）。

地域特有形式 短頸腸挟柳葉形鏃自体は広域共通形式であるが、頸部関が棘状関でなく台形関である点は、地域的特徴を反映する要素である可能性がある。近畿・瀬戸内において、棘状関をもつ長頸鏃には基本的に腸挟がみられない〔飯塚1987、尾上1995〕。内山敏行によると、関東・中部地域にみられる長頸腸挟長三角形鏃には棘状関があり、京都府北部～山陰地域にみられるものには直角関がある点で、区別できるという〔内山1998〕。兵庫県北部地域においても、TK43型式期以降の長頸腸挟長三角形の鏃身部に台形関という特定の頸部関が組み合うということを確認した〔土屋2014〕。本例は短頸腸挟柳葉形であり頸部の長さに違いはあるが、上記の傾向との関連性が考えられるだろう。すなわち、短頸腸挟柳葉形の頸部関が棘状関でなく台形関である点は、京都府北部～山陰地域に共通してみられる地域的特徴として捉えられる可能性がある（第72図）。

有茎方頭形透鏃は、元々高句麗・新羅に多くみられる形式である。6世紀前半代に新羅から影響をうけて、北部九州地域にも多く分布するようになり、TK43型式期までには瀬戸内海沿岸地域へ広がった。さらに岡山平野地域では、独自の慣習に基づいて透かし孔を入れるようになる〔尾上1993、1995〕。近年、須崎一幸や寒川史也によってこの鉄鏃が集成され、再検討がなされた〔須崎2004、寒川2016〕。

筆者の集成もあわせると、畿内地域では大阪府東大阪市出雲井5号墳〔東大阪市教育委員会



1. 島根県古天神古墳 2. 鳥取県日下5号横穴墓 3. 岡山県畑の平1号墳
4. 岡山県畑の平5号墳 5. 岡山県乙佐塚古墳 6. 岡山県金浜古墳 7. 岡山県芝浦2号墳
8. 岡山県湾戸7号墳 9. 兵庫県東山1号墳 10. 兵庫県奥豊部1号墳

第73図 有茎方頭形透鏃の類例〔S=1/4〕

1984)、能勢郡能勢町野間中 A-3 号墳〔大阪府教育委員会 1992〕、日本海側では京都府京丹後市湯舟坂 2 号墳〔久美浜町教育委員会 1983〕、鳥取県岩美町浦富 3 号墳〔岩美町教育委員会 1988〕、米子市日下 5 号横穴墓（第 73 図 - 2）、伝鳥根県上塩冶築山古墳例（出雲弥生の森博物館蔵）、山陽地方では兵庫県多可郡奥豊部 1 号墳（第 73 図 - 10）、多可郡東山 1 号墳（第 73 図 - 9）、岡山県勝田郡畑ノ平 1 号墳（第 73 図 - 3）、畑ノ平 5 号墳（第 73 図 - 4）、真庭市中原 25 号墳〔岡山県教育委員会 1995〕、新見市道上古墳〔岡山県教育委員会 1978〕、瀬戸内地域では岡山県瀬戸内市乙佐塚古墳（第 73 図 - 5）、岡山市塚段古墳第 1 石室〔岡山市教育委員会 2016〕、総社市江崎古墳〔総社市史編さん委員会 1987〕、倉敷市金浜古墳（第 73 図 - 6）、倉敷市芝浦 2 号墳（第 73 図 - 7）、倉敷市湾戸 7 号墳（第 73 図 - 8）、徳島県阿波市菖蒲谷西山 4 号墳（SM1004）〔菅原・藤川・須崎 1994〕、香川県喜兵衛島 4・5・6・8 号墳〔近藤 1999〕、愛媛県今治市高橋岡寺 1 号墳〔今治市教育委員会 2009〕、北部九州地域では福岡県鞍手郡鞍手町新延大塚古墳〔鞍手町教育委員会 1985〕、福岡市夫婦塚 2 号墳〔福岡市教育委員会 2006〕、筑紫郡那珂川町観音山古墳群平石Ⅲ -9 号墳〔福岡県教育委員会 2010〕、宗像市浦谷 D-1 号墳〔宗像市教育委員会 1982〕、八女郡広川町植松 6 号墳例〔広川町教育委員会 1994〕などの事例を挙げることができる。やはり畿内地域では出土数が限られ、西側の北部九州から瀬戸内地方にかけての分布が顕著である。

これらの多くは TK43 型式期以降に位置づけられるものであるが、岡山県内出土品には金浜古墳例や乙佐塚古墳例のように TK10 型式期の須恵器が共伴する事例が含まれている。また、有茎方頭形透鏃は分布的にも瀬戸内地域に集中していることから、瀬戸内地域の地域色をもつものとして位置づけられている〔寒川 2016〕。有茎方頭形透鏃の一定数が北部九州にも確認されているものの、分布状況を考えると、古天神古墳例は瀬戸内地域からの移入品である可能性が高いだろう。

おわりに

古天神古墳出土鉄鏃の製作時期は、古墳名で表現するならば、出雲地域では上塩冶築山古墳、御崎山古墳、中村 1 号墳い群、岡田山 1 号墳例、畿内地域では藤ノ木古墳、平林古墳、烏土塚古墳例とほぼ同じ時期であると考えられる。また、鉄鏃の系譜については、広域共通形式と地域特有形式の両方がみられ、地域特有形式には瀬戸内地域に系譜が辿れるものが認められた。製作地については明らかではないが、被葬者のネットワークの広さが窺える。

謝 辞

資料調査の際には下記の方々と機関にお世話になりました。記して感謝の意を示します。

今井智恵、岩本崇、坂本豊治、松本岩雄（敬称略）、出雲弥生の森博物館、鳥根県立八雲立つ風土記の丘

引用文献

- 飯塚武司 1987「後期古墳出土の鉄鏃について」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』V 財団法人東京都埋蔵文化財センター
- 内山敏行 1998「新郭古墳群の検討」『新郭古墳群・新郭遺跡・下り遺跡』（栃木県埋蔵文化財調査報告 214 集）
- 梅原末治 1918「出雲に於ける特殊古墳（上）」『考古学雑誌』第 9 卷第 3 号 聚精堂
- 大谷晃二 1999「上塩冶築山古墳をめぐる諸問題」『上塩冶築山古墳の研究』（鳥根県古代文化センター調査研究報告書 4）鳥根県教育委員会
- 尾上元規 1993「古墳時代鉄鏃の地域性—長頸式鉄鏃出現以降の西日本を中心として—」『考古学研究』第 40 卷第 1 号 考古学研究会

- 尾上元規 1995「古墳時代後期における鉄鏃の地域性形成について—岡山県南部を例としてみた鉄器生産の画期—」『古代吉備』第17集 古代吉備研究会
- 寒川史也 2016「透かしをもつ有茎平根式鉄鏃に関して」『塚段古墳・坂口古墳』岡山市教育委員会
- 後藤蔵四郎 1925「古天神の古墳」『鳥根県史蹟名称天然記念物調査報告』第二回 鳥根県
- 杉山秀宏 1988「古墳時代の鉄鏃について」『樞原考古学研究所論集』第8 吉川弘文館
- 須崎一幸 2004「透かし」を持つ有茎鏃について」『眞朱』第4号 財団法人徳島県埋蔵文化財センター
- 鈴木一有 2003「中期古墳における副葬鏃の特質」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第11集 帝京大学山梨文化財研究所
- 関 義則 1986「古墳時代後期鉄鏃の分類と編年」『日本古代文化研究』第3号 PHALANX—古墳文化研究会—
- 高橋健自 1919「出雲国八束郡大草古天神山古墳発掘遺物」『考古学雑誌』第9巻第5号 考古学会
- 土屋隆史 2014「文堂古墳出土鉄鏃の意義」『兵庫県香美町村岡 文堂古墳』（大手前大学史学研究所研究報告第13号）大手前大学史学研究所・香美町教育委員会
- 野津左馬之助 1925「第十一八束郡大庭村大字大草古天神古墳」『鳥根県史』第4巻 鳥根県
- 原喜久子 1993「鳥根県における古墳時代の鉄鏃について」『鳥根考古学会誌』第10集 鳥根考古学会
- 平林大樹 2013「信濃における後期・終末期古墳副葬鏃の変遷」『物質文化』93 物質文化研究会
- 水野敏典 1993「古墳時代後期の軍事組織と武器副葬—長頸鏃の形態変遷と計量の相関にみる武器供給から—」『古代』第96号 早稲田大学考古学会
- 水野敏典 2003「鉄鏃にみる古墳時代後期の諸段階」『後期古墳の諸段階』（第8回東北・関東前方後円墳研究会大会）

遺跡文献

- 今治市教育委員会 2009『高橋山岸山古墳』（今治市埋蔵文化財調査報告書第94集）
- 岩美町教育委員会 1988「浦富3号墳発掘調査報告書」『岩美町文化財発掘調査報告書』10
- 大阪府教育委員会 1992『野間中古墳群発掘調査概要』
- 岡山県教育委員会 1978「道上遺跡」『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査報告』13（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告23）
- 岡山県教育委員会 1995「中原古墳群」『中国横断自動車道建設に伴う発掘調査2』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告93）
- 岡山市教育委員会 2016『塚段古墳・坂口古墳』（銀層ガラス玉を出土した後期古墳の発掘調査報告）
- 乙佐塚古墳埋蔵文化財発掘調査委員会 1986『乙佐塚古墳発掘調査報告書』
- 片岡弘至・鍵谷守秀 1998『湾戸7号墳』（倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告7）倉敷埋蔵文化財センター
- 京都府立大学考古学研究室・多可郡中町教育委員会 1999『東山古墳群Ⅰ』
- 久美浜町教育委員会 1983『湯舟坂2号墳』（京都府久美浜町文化財発掘調査報告7）
- 倉敷埋蔵文化財センター（編）1997『茂浦古墳群』（倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第5集）
- 鞍手町教育委員会 1985『新延大塚古墳 福岡県鞍手郡鞍手町所在古墳の調査』（鞍手町文化財調査報告書第3集）
- 近藤正・山本清 1962『薄井原古墳調査報告』鳥根県教育委員会
- 近藤義郎 1999『喜兵衛島一師楽式土器製塩遺跡群の研究—』喜兵衛島刊行会
- 坂本豊治（編）2012『中村1号墳』（出雲市の文化財報告15）出雲市文化環境部文化財課
- 鳥根県教育委員会（編）1987『出雲岡田山古墳』鳥根県教育委員会
- 鳥根県教育委員会・鳥根県立八雲立つ風土記の丘（編）1996『御崎山古墳の研究』（鳥根県立八雲立つ風土記の丘研究紀要3）鳥根県教育委員会
- 鳥根県古代文化センター（編）1999『上塩冶築山古墳の研究』（鳥根県古代文化センター調査研究報告書4）鳥根県教育委員会
- 菅原康夫・藤川智之・須崎一幸 1994「菖蒲谷西山B遺跡」『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』

4 古天神古墳出土鉄鏃の位置づけ（土屋）

- 10（徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第10集）財団法人徳島県埋蔵文化財センター
総社市史編さん委員会 1987「江崎古墳」『総社市史』考古資料編
中尾秀信（編）1991『田和山古墳群発掘調査概報』（松江市文化財調査報告書47）松江市教育委員会
奈良県立橿原考古学研究所（編）1972『烏土塚古墳』（奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第27冊）奈良県教育委員会
奈良県立橿原考古学研究所（編）1978『桜井市外鎌山北麓古墳群』（奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第34冊）奈良県教育委員会
奈良県立橿原考古学研究所（編）1987『史跡牧野古墳』（広陵町文化財調査報告第1冊）広陵町教育委員会
奈良県立橿原考古学研究所（編）1990『斑鳩藤ノ木古墳第1次調査報告書』斑鳩町
奈良県立橿原考古学研究所（編）1993『龍王山古墳群』（奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第68冊）奈良県教育委員会
奈良県立橿原考古学研究所（編）1994『平林古墳』（當麻町埋蔵文化財調査報告第3集）當麻町教育委員会
原田敏照・丹羽野裕 1997『島田池遺跡・鶴貫遺跡』（一般国道9号安来道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書西地区8）建設省松江国道工事事務所・島根県教育委員会
東大阪市教育委員会 1984『東大阪市埋蔵文化財包蔵地調査概要』25
兵庫県多可郡加美町教育委員会 1999『奥豊部1号墳』（加美町文化財報告3）
広川町教育委員会 1994『植松古墳群：福岡県八女郡広川町所在古墳群の調査』（広川町文化財調査報告書第11集）
弘田和司・植月康雅・氏平昭則 1996『西大沢古墳群 畑ノ平古墳群 黒土中世墓 虫尾遺跡 茂平古墓 茂平城』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告111）岡山県教育委員会
福岡県教育委員会 2010『観音山古墳群平石Ⅲ群 福岡県筑紫郡那珂川町所在古墳群の調査』（九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告第15集）
福岡市教育委員会 2006『夫婦塚古墳2—金武古墳群7次調査報告—』（福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第908集）
間壁忠彦・間壁茂子・藤田憲司 1979「金浜古墳」『倉敷考古館研究集報』第14号
宗像市教育委員会 1982『浦谷古墳群：宗像市大字朝町所在古墳群の調査』（宗像市文化財調査報告書第5集）
八雲村教育委員会 1980『高野2号横穴発掘調査報告書』
米子市史編さん協議会（編）1999『新修米子市史』第7巻 資料編考古 原始・古代・中世 米子市

挿図出典

- 第68図：1. 島根県教育委員会・島根県立八雲立つ風土記の丘編1996、2. 島根県古代文化センター編1999、3.7. 坂本編2012、4. 八雲村教育委員会1980、5. 島根県教育委員会編1987、8. 原田・丹羽野1997、9. 奈良県立橿原考古学研究所編1994、10. 奈良県立橿原考古学研究所編1972、11. 奈良県立橿原考古学研究所編1990、12. 奈良県立橿原考古学研究所編1987。
第69図：1. 島根県古代文化センター編1999、2. 島根県教育委員会・島根県立八雲立つ風土記の丘編1996、3. 坂本編2012、4. 島根県教育委員会編1987、5. 八雲村教育委員会1980。
第70図：2. 島根県古代文化センター編1999、3.4. 原田・丹羽野1997、5. 中尾編1991、6. 奈良県立橿原考古学研究所編1993。
第71図：2. 島根県教育委員会・島根県立八雲立つ風土記の丘編1996、3. 原田・丹羽野1997、4. 奈良県立橿原考古学研究所編1990、5. 奈良県立橿原考古学研究所編1993。
第72図：2. 島根県教育委員会・島根県立八雲立つ風土記の丘編1996、3. 八雲村教育委員会1980、4. 原田・丹羽野1997、5. 近藤・山本1962、6. 奈良県立橿原考古学研究所編1978。
第73図：2. 米子市史編さん協議会編1999、3.4. 弘田・植月・氏平1996、5. 乙佐塚古墳埋蔵文化財発掘調査委員会1986、6. 間壁・間壁・藤田1979、7. 倉敷埋蔵文化財センター編1997、8. 片岡・鍵谷1998、9. 京都府立大学考古学研究室・多可郡中町教育委員会1999、10. 兵庫県多可郡加美町教育委員会1999。
その他は土屋作成。